

## 溝谷区まちづくり計画書

### 1. 「まちづくり計画」について

#### (1) 「住み続けられるふるさと溝谷」を目指して・・・計画の必要性

今、世界では国家間の紛争及び不安定な関係による様々な影響、そして石油資源をはじめとする炭素エネルギーへの依存と脱却、地球温暖化を防ぎつつ持続可能な開発と成長を目指すSDG 'Sへの取組み、通信、情報処理技術の加速的な進展など、目まぐるしい変化が続いています。

国内においても、これらの世界的な変化の影響に加え、少子高齢化、製造業の衰退、福祉需要の高まりによる国民及び国家経済の負担増などの問題が生じ、対応が求められています。

我が溝谷区においても、若年人口の流出による少子高齢化は、空き家問題、農業をはじめとした各産業の後継者問題、高齢独居世帯の増加による支援問題など、多くの課題の発生原因となり、集落機能の維持に大きな影響を与えています。

このような情勢の下、地元・溝谷で暮らし続けるためにはどうしたら良いか、区役員関係者だけではなく、区民ひとり一人に対応が問われています。今、溝谷区では年ごとに事業計画、予算を組み、決算を打っています。毎年、堅実に区政を進めていくことは必要ですが、一方で5年、10年先を見つめ、計画的に取り組むことも必要です。そこで、本計画を策定し、「住み続けられるふるさと溝谷」の実現を目指すこととします。

#### (2) 計画期間

この計画の期間は10年間とし、5年ごとに見直すこととします。また、法令等の改正及び区内の情勢の変化に伴い、本計画と整合性をとる必要が生じた場合など、必要に応じて随時改定できるものとします。

### 2. 溝谷区の概要

#### (1) 位置

区事務所 住所 京都府京丹後市弥栄町溝谷 3651 番地

経緯 北緯 35 度 39 分 33 秒 40 東経 135 度 05 分 38 秒 04

標高 21.9m (区事務所)・・・経緯ともに国土地理院国土マップから

・京都府北部、丹後半島のほぼ中央部に位置し、京丹後市役所から直線距離で約4.9km北に区事務所があります。

・概ね、東は外村区、西は竹野川を挟んで和田野区、南は堤区、北は黒部区、船木区に接しています。

#### (2) 地勢

溝谷区は、金剛童子山、高尾山山系を源流とする溝谷川の下流に立地します。溝谷川の上流部は、安山岩、玄武岩質火山岩など固い岩からなる急峻な地形ですが、等楽寺付近か

ら下流は花崗岩となるため、兩岸の丘陵はなだらかになります。溝谷川は、区内を東西に貫流したのちに、竹野川が形づくった平地（通称・弥栄平野）へ進み、和田野橋の北方で竹野川へ合流します。

溝谷区は、溝谷川兩岸と竹野川右岸に広がる平野部と、起伏が緩やかな丘陵部に大別できます。平野部には、竹野川に平行して南北に走る国道 482 号線と、溝谷川沿いに東西に走る市道溝谷中央線があり、道路に面して住宅地、商業施設、公共施設が分布します。また、丘陵部のうち船木・黒部区に隣接する北西側の府道 53 号線沿いは、国営農地開発によって生まれた奈具岡団地が広がっています。

### (3) 歴史

溝谷区で最も古い人の営みは、奈具岡遺跡から発見された縄文時代草創期の有舌尖頭器（ゆうぜつせんとうき）です。同じ奈具岡遺跡では、弥生時代中期の水晶や緑色凝灰岩を原料とする玉作り工房が見つかっています。古墳時代には、溝谷丸山古墳、溝谷 2 号墳のほか、朝鮮半島で焼かれた陶質土器が出土した奈具岡北 1 号墳など有力者のお墓（古墳）が造られます。

延長 5 年（927）の『延喜式』には、竹野郡に「溝谷神社」が記されます。これを別にすると「溝谷」の地名は、伊根町菅野の妙光寺が所蔵する天文 23 年（1554）の梵鐘の銘文「舟木庄溝谷」が最も古く、当時の溝谷は、舟木（船木）庄の領域であったことがわかります。

江戸時代の溝谷村は宮津藩領でした。元禄 10 年（1697）の「宮津領分明細帳」によると、外村分村後の溝谷村は、立山村、市場村、八所村等で構成され、979 石、95 戸、477 人となっています。明治維新後、明治 9 年（1876）には、外村と合併し溝谷甲区となり、同 22 年の町村制施行により溝谷村字溝谷となります。その後、昭和 8 年（1933）の合併により弥栄村字溝谷、昭和 30 年（1955）の合併により弥栄町字溝谷、平成 16 年（2004）の合併により京丹後市弥栄町溝谷となっています。

### (4) 主な寺社仏閣等

#### ①興國山龍淵寺

慶安元年 2 月（1648 年）、橘州宗曇大和尚開山勤室文察大和尚開基。本尊聖観音菩薩、曹洞宗。本堂は弘化 2 年（1845）再建のもので、京都府暫定登録文化財となっています。

#### ②八所薬師堂

明和 9 年（1772）6 月再興と伝えています。現在の堂は平成 6 年に再建されたもので、薬師如来をご本尊としています。八所バス停の北側、石段の上にあります。

#### ③愛宕神社

由緒は不明で、祭神は火産霊神（ほむすび=火の神様）。八所薬師堂の右から参道を小高い丘まで登ると小さな祠があります。

#### ④秋葉神社

慶応元年（1865）創建。祭神は賀具津智神（かぐつち=火の神様）。静岡県の秋葉神社より勧請と伝えています。4組民家の北側、藪を抜けた奥にあり、平成16年に社殿建立、令和4年には朱塗りの鳥居が新調されました。

⑤立山神社

創建不明。元は三宝荒神と称していましたが、明治5年（1872）に立山神社と改称しました。祭神は三柱命と久々遇知命。後者は、元新宮権現と称し字新宮山に鎮座していましたが、明治5年に立山神社へ合併奉祀しました。立山、1組の民家の東側山中に社殿があります。

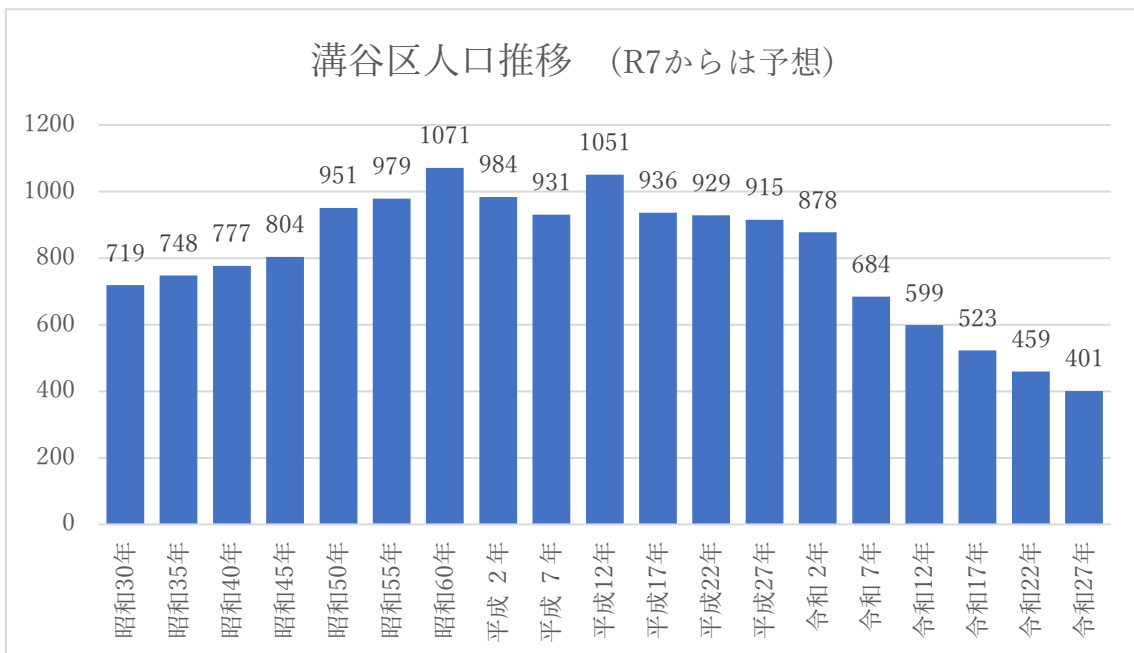
⑥森崎神社

創建不明。祭神は三柱神のほかは不明です。かつては8月17日より19日まで大市があったことから、溝谷の市場と称したと伝えています。明治5年に龍淵寺付近の若宮社を合祀しました。秋の祭礼には「市場神社」の幟が立ち、かつて市があったことをしのばせます。6組、国道482号線東側にあります。

(5) 住民の状況（人口、世帯の推移、隣組の状況）

溝谷区の人口は国勢調査によると昭和60年の1071人までは増え続けたものの、そこから減少に転じ、令和2年調査では878人となっています。また、将来の予想では、令和27年には401人と、令和2年を基準にすると25年間で半減するとされています。

年令別人口構成比では、20～40代の人口減少が激しく、これに伴い10代以下の人口も、極端に減少しています。（R1実施溝谷区アンケート）



## (6) 区の体制

### ①隣組

現在、溝谷区は 16 の隣組で構成されています。各隣組単位で組長と体育協力員が各 1 人選ばれ、そのうち組長は区の議員となります。このほか、隣組によっては宮係など、組独自の役を定めている所もあります。

### ②区役員

**区長** 区長は区長選考委員会で選ばれ、区の総会で承認を受け、就任します。任期は 1 年間です。区長は「あて職」として、溝谷地区活動組織の副代表、国営奈具岡団地管理組合長(2 年任期で外村の区長と交代)などの役職を兼ねます。

**理事** 6 人。区内を 3 つのブロックに分け、各ブロックから 2 人ずつ理事が選出されています。任期は 2 年間で、毎年 3 人ずつ選ばれます。一般的に 2 年目の理事から副区長が選ばれます。

**部長** 2 年目の理事 3 人のうち、副区長を除く 2 人が、土木部長と体育厚生部長に就任し、それぞれ所管の業務を担当します。1 年目の理事は、体育厚生部副部長と、土木部の中で農業土木副部長と一般土木副部長に就きます。

**監事** 3 人。隣組長(議員)の中から 3 人を充てます。

## (7) 主な行事 (日程は大まかなもので年度により開催日は異なります)

### ①一般行事

- 4 月上旬 桜を観よう会
- 6 月中下旬 溝谷川竹野川芦刈、農村広場草刈り(総役) 1 週間後、刈った草焼き
- 8 月 14 日 納涼祭
- 8 月下旬 防災訓練(消防団・自主防災組織。市の総合訓練に合わせて)
- 9 月上旬 長寿激励会
- 10 月上旬 秋祭り
- 1 月中旬 区総会(総役扱い)

### ②農業関係行事

- 3 月下旬 堤防焼き
- 4 月上旬 溝堀り役
- 5 月上旬 伊根立て
- 8 月下旬 農家総役(農道草刈り)
- ※ その他、活動組織により溝上げ、国営奈具岡団地及び関係農地の道路法面草刈りなどがあります。

### ③スポーツ大会

- 7 月上旬 地区対抗ソフトボール大会(体協弥栄支部主催)
- 7 月下旬 3 区対抗グラウンドゴルフ大会溝谷区予選会
- 7 月下旬 地区対抗バレーボール大会(体協弥栄支部主催)

- 9月下旬 地区対抗野球大会(体協弥栄支部主催)  
10月下旬 3区対抗グラウンドゴルフ決勝大会  
11月3日 文化祭駅伝競走大会(体協弥栄支部主催)  
④その他  
月1回 ひまわりサロン(福祉委員会)  
10月下旬 サロン祭り(3区合同)  
12月中旬 子供会クリスマス会(3区合同)

(8) 主な公共機関等

- ①京丹後市弥栄市民局  
②京丹後市弥栄地域公民館  
③弥栄図書室  
④京丹後市社会福祉協議会本所  
⑤京丹後市シルバー人材センター本部  
⑥農業集落排水処理施設  
⑦溝谷簡易水道取水池浄水場配水池

(9) 主な小売り店、商業施設、飲食店等 (R4.10.1 現在、区事務所調べ)

- ①にしがき弥栄店  
②ゴダイドラッグ弥栄店  
③ローソン弥栄店  
④一心堂  
⑤平源食堂  
⑥平井商店  
⑦木本商店  
⑧中村時計店  
⑨ヘヤーサロンカサナミ  
⑩サラダ館弥栄店  
⑪志摩機械株式会社弥栄営業所  
⑫うめや本舗  
⑬芦田自転車店  
⑭808 やおや  
⑮弥栄郵便局  
⑯京都農業協同組合弥栄支店  
⑰京都北都信用金庫弥栄支店 A T M  
⑱デイリーヤマザキ弥栄病院店  
⑲弥栄ゆう薬局

⑳日本調剤弥栄薬局

(10) 主な企業、工業施設

- ①神村工業所
- ②上田建設
- ③竹野酒造
- ④シンエーテクノ
- ⑤新井製作所
- ⑥サンシマツ
- ⑦堀江製作所
- ⑧山副製作所
- ⑨マルモ製麺所
- ⑩藤原工務店
- ⑪木下工務店
- ⑫梅田建築
- ⑬平安

(11) 農業施設

- ①コンバイン組合脱穀乾燥施設・作業場
- ②京都農業協同組合貯蔵施設
- ③沖田揚水灌漑ポンプ
- ④溝谷川井堰5カ所
- ⑤国営奈具岡団地ファームポンド・揚水ポンプ
- ⑥溝谷区精米施設

(12) 福祉施設

- ①養護老人ホーム満寿園
- ②総合老人福祉施設 弥栄はごろも苑（長期・短期入所、通所介護、居宅介護他）
- ③グループホームかえで（認知症対応型生活介護施設）
- ④あしぎぬホームなごみ（小規模多機能型居宅介護施設）

(13) 医療施設等

- ①京丹後市立弥栄病院
- ②やさか老人保健施設ふくじゅ
- ③行待歯科医院
- ④森岡歯科医院
- ⑤うめだ鍼灸院

⑥京丹後市立弥栄病院医師官舎、医師看護師官舎(5階建て)

(14) 教育等施設

- ①弥栄中学校
- ②弥栄放課後児童クラブ
- ③弥栄地域公民館(再掲)
- ④弥栄図書室(再掲)

(15) 主な道路

- ①国道 482号線
- ②府道 網野岩滝線
- ②市道 溝谷中央線
- ③市道 溝谷外村線

(16) 主な橋梁

- ①仲瀬橋
- ②八所橋
- ③立山橋
- ④溝谷橋
- ⑤中川原橋
- ⑥和田野橋

3. これからの溝谷のすがた

(1) 人口問題

集落の機能維持には、一定の人口の維持が必要です。集落の機能とは、暮らしやすい環境のための、様々な条件です。例えば買い物施設、医療機関、学校保育所等の教育児童福祉施設、老人ホームのような高齢者福祉施設、水田水路などの農業関係施設、金融機関、給油所などのエネルギー供給施設、冬季を含む交通手段など、生活するうえで必要な施設やサービス全体です。

これらの機能が徐々に失われると、だんだん生活しづらくなり、やがて限界集落となり集落そのものが消滅しかねません。溝谷が直ちに消滅することは中々想像できませんが、そうならないために現在溝谷に暮らす者の責務として、人口の維持あるいは増加を図る取り組みが必要です。

(2) 住宅の確保

人口問題を解決する一つの課題が、住宅問題です。溝谷区内の住宅事情は、賃貸して

いる住宅は少しありますが、ほとんどが戸建ての自家所有の住宅です。また、宅地については昭和 40 年代の久原団地造成分譲以降は大規模分譲宅地は無く、ほぼ個別に求めた土地に住宅が建てられている状況です。

具体的には水田、畑などの耕地を転用し埋め立てて造成したり、空き家等を解体し敷地を再整地して住宅を建てるケースが、散見されます。

このため、今後の区民の子息のUターンあるいは他地区からの転入の受け皿として、住宅用地が求められやすいよう、区及び区民の理解と協力が必要です。

また、戸建て住宅については取得費が高額になることに加え、将来住む者がいなくなった場合の解体撤去の費用を考えると、資産としてだけでは無く負債となる可能性もあります。このため、アパートなどの集合住宅は、例えば若者世帯あるいは単身世帯にとって身軽に利用できる、多様な住宅形態の一つと位置付けられるため、区内の人口維持、増加に一定の役割を果たすと期待されます。

### (3) 雇用の確保

「住職近接」という言葉があるとおり、住んでいる家と職場が近いと通勤の負担はもとより、子育て、あるいは介護のために気軽に自宅と職場を往復できるなど、様々な利点があります。溝谷区内に多くの職場があり住職近接が実現できることが一番望ましく、機械金属加工業などの事業所、商店などの小売業、また病院などの医療機関や福祉施設が区内に存在することは、地域の雇用の場としての観点から意義深く、今後も継続して事業展開をしていただく事が重要です。

また地域の農業の二本柱は、水稻耕作を主とした平地部と、大根・カブなどの根菜類や花卉を主とする国営農地・奈良岡団地における営農です。農業は単に農家の経済活動という面だけでなく、区内の生活環境の維持、資産管理などの側面もあるため、継続して農業ができるよう、区としての支援は重要です。加えて、営農組合、コンバイン組合、活動組織など農業者団体の組織は、今後の農業従事者の高齢化や設備投資の高額化への対策として大変重要であり、継続発展することが期待されます。

一方で区の農業者全体の組織(農家組合等)が無い現状は、水路、農道の整備及び維持、水利の効率的な活用、管理、計画的な地域営農の実践、各種補助金の受け皿としての機能不足など課題が多く、早い時点での組織化が望まれます。

### (4) 生活環境

区内で生活するうえで、水、空気、給排水、騒音、振動などが無い環境が、何より大切です。このため、道路や水路の不良箇所は府、市に要望して改修を求めるほか、時には区においても対策を進めるなど環境の維持向上に取り組んでいます。また、これら平穏な生活環境の維持は区民同士の協力も必要であり、例えばゴミステーション周辺の掃除など、それぞれの地域で取り組むことが重要です。



#### (5) 区事務所、区公民館の活用について

区事務所・区公民館は溝谷のまちづくりの拠点であり、とりわけ区公民館は区民が集う場として活用されているところです。特に福祉委員会が主体となって区内の高齢者の方の外出、社会参加を促す「ひまわりクラブ」は、毎月定例的に区公民館を会場として開催されています。

また、災害対策や消防団の待機場所の他、秋祭などの練習会場と祭用具、そして農業関係の諸資材の保管場所としての機能も有するなど、区事務所・区公民館は区民にとってなくてはならない施設です。

この施設を維持管理するため、又は備品類を更新するため、今後とも市補助金を活用した整備を進めます。

#### (6) 文化、スポーツ

文化、スポーツの振興は区民の皆さん相互の親睦、生きがいつくり、あるいは健康増進など、多くの意義が見いだせます。しかし人口の減少、少子高齢化などにより、例えば少年野球、少女バレー、ゲートボール、グラウンドゴルフなどのスポーツは、以前から区内だけではチーム編成、あるいは試合の開催などが出来なくなっています。これらは旧学区単位、さらには旧弥栄町単位と、組織対象エリアが広がっている現状にあります。従って、広域での取り組み、あるいは少人数でも行える内容を検討するなど、時代の流れを理解した取り組みが求められます。

#### (7) 地域の行事

区内では、秋祭りをはじめ地蔵盆など多くの行事があります。これらの行事は文化、スポーツ事業とともに、区民の親睦、相互理解に重要な役割を果たしています。例えば、子供と青壮年、高齢者といった世代間の交流は、区内全体を対象とした事業はもとより、隣組単位の懇親会等でも意義深いものがあると言えます。

このことは、子供たちの安全を区民の多くの目で見守ることや、独居高齢者の安否確認など公的サービスだけに頼らない、相互扶助の実現にはとても大切です。

また、子供たちに幼少期に地域で遊ぶという大切な経験や、思い出づくりのため、保護者の他、多くの区民がかかわり育むことが大切です。

普段は特に意識しなくても、災害時などの緊急時は区民それぞれの顔が見え、常の生活が分かる関係でいることは、救助や支援などがスムーズに運ぶために重要です。そのためにも、地域の行事は大切な役割を果たしていると言えます。

#### (8) 区のありかたと住み続けられる「ふるさと溝谷」へ

国は国民の生活を守るため、各省庁がそれぞれの分野に分かれ施策を展開し、府市も概ね同様に各部局に分かれ、その流れを受けて各業務を分担します。一方、区はそれらのほぼ全てを最も住民に近い所にある組織として受け止めます。国や府市が政策立案、予算

配分の立場なら、区は直接的に住民の暮らしを維持、向上する組織として位置づけられていると言えます。

一方、区は行政の流れとは別に住民の自主的な自治組織として、住民自らが作った組織でもあります。例えば行政が作った福祉の制度とは別に、独居老人の方の生活を近所の人が気遣うなど、お互いが支え合いその情報を共有するということが、日常的にあります。この事は個人情報の保護とは別の次元で、区民が溝谷の地で共存するために、大切なことと言えます。

また、土地をベースにする農業も、水利水系をはじめとして、関係者の協議や相互理解が欠けると円滑な営農ができません。本来、営農者同士で解決すべき問題もありますが、農業というものが区民が生活している土地や水に大きく関係している以上、区が全体調整あるいは関係農家の意見調整をすることも大切です。このため、区長、副区長をはじめ区には土木部を置き、理事が部長及び農事担当副部長を務めています。

一方で、区民の負託を受けて就任した区役員は、区長は1年、理事は2年任期で務めているものの、国や府市の職員のように専任ではなく、それぞれの職業、仕事の都合を調整しながら務める兼任です。このため、区の用務に従事する時間も限られ、また区内の問題解決のための調整にかかる権限は限定的です。それらの状況が続く中、最近では役員のなり手が少なく、区長選考に時間がかかるという課題があります。このため、今後、区役員が務めやすいよう、関係する事業や業務内容について、柔軟に見直すことも大切です。

現在、世の中の各種情報は新聞、テレビだけではなく、それを凌駕してインターネットによりスマートホンなどを通して簡単に、大量に入手できる時代となっています。また、SNSにより各個人による情報発信、主張や意見集約も瞬時に行われ、意見形成がなされます。そういう時代の中で区民が区という組織に何を求め、自らも一区民としてどのように期待される責務を果たすのか、今後も問い続けることが必要です。意見や利害の相違があるとしても、区民相互の理解や協力が無いところに子息がUターンしたり、ましてや他地区からの転入など、ありえません。今後、溝谷という集落を維持し暮らし続けることができるよう、今後も区民全体で溝谷区がより住みやすい所となるよう、その在り方を求め続けることが大切です。

#### 4. 資料

- (1) 溝谷区町づくり計画策定委員会規約
- (2) 溝谷区まちづくり計画策定委員会 委員名簿
- (3) 計画策定のあゆみ